

### 3 配偶者等への加害経験

#### (1) 配偶者や恋人の有無

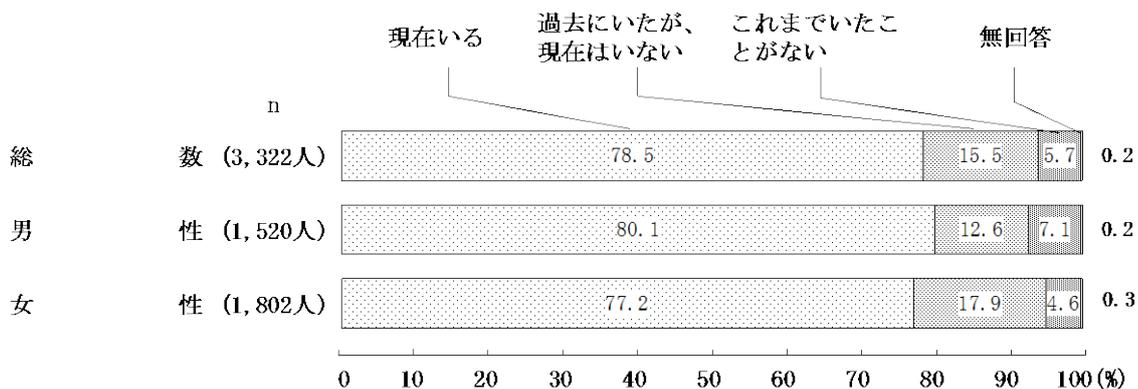
未婚にかかわらず、現在または過去における配偶者や恋人の有無を聞いたところ（図3-1-1）、「現在いる」人（78.5%）は8割弱で、「過去にいたが、現在はいない」人は15.5%であった。

「これまでいたことがない」（5.7%）という人は1割に満たない。

男女別にみると（図3-1-1）、配偶者や恋人が「過去にいたが、現在はいない」人（男性12.6%、女性17.9%）が女性で2割弱と、男性より5ポイント多くなっている。

【全員の方に】  
問9 あなたは、現在または過去に配偶者や恋人がいましたか。あてはまる番号に○をつけてください。  
(○は1つ)

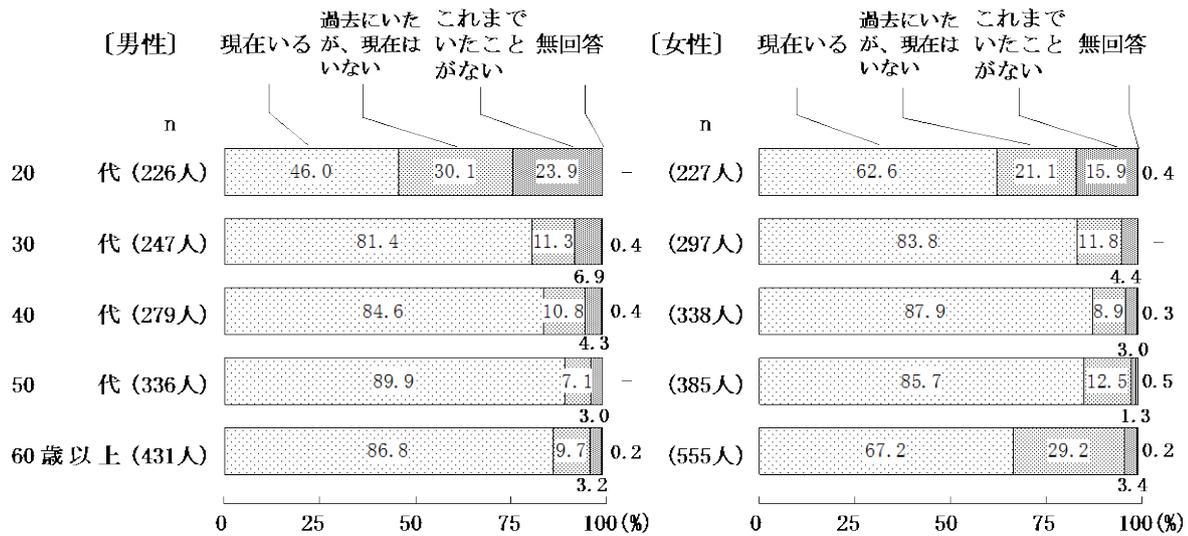
図3-1-1 配偶者や恋人の有無



性・年齢別にみると（図3-1-2）、配偶者や恋人が「現在いる」人は、男性の30代以上と女性の30代～50代で8割台と多数を占めているが、女性の20代（62.6%）と60歳以上（67.2%）では6割台、男性の20代（46.0%）では4割台となっている。

一方、配偶者や恋人が「過去にいたが、現在はいない」人は、男性の20代（30.1%）と女性の60歳以上（29.2%）で3割、女性の20代（21.1%）で2割である。

図3-1-2 配偶者や恋人の有無（性・年齢別）



## (2) 配偶者等への加害経験

現在もしくは過去に配偶者や恋人がいる（いた）と答えた人（3,123人）に、16の行為をあげて、配偶者や恋人関係にあった人に対して行ったことがあるかを聞いた（図3-2-1）。

16の行為についてはいずれも、これまでに配偶者や恋人に対してしたことが「まったくない」という人が多数を占めているが、これまでに「1、2度あった」という人は、“大声でどなる”こと（24.0%）で2割強、“何を言っても長期間無視し続ける”（12.2%）、“平手で打つ”（11.7%）、“物を投げつける”（10.3%）、“なぐるふりをして、おどす”（9.4%）、“ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす”（9.2%）、“足でける”（7.2%）といった6つの行為で1割前後となっている。

特に、“大声でどなる”は、「何度もあった」（7.1%）という人も1割近くいる。

また、男女別にみると（図3-2-2）、いずれの行為についても、男女ともしたことが「まったくない」という人が多数を占めている。

「1、2度あった」もしくは「何度もあった」という加害経験のある人は、男性が女性と同率もしくはやや上回る傾向があるが、“大声でどなる”は「1、2度あった」（男性33.0%、女性16.6%）という人が男性の3人に1人にのぼり、女性を16ポイント上回っている。

また、“平手で打つ”（同16.3%、7.9%）、“なぐるふりをして、おどす”（同14.6%、5.1%）、“ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす”（同14.3%、5.0%）なども、「1、2度あった」という人が男性で1割を上回り、女性と10ポイント近い開きがある。

【問 10 と問 11 は、問 9 で、配偶者や恋人が「1 現在いる」「2 過去にいたが、現在はいない」と答えた方に、お聞きします。】

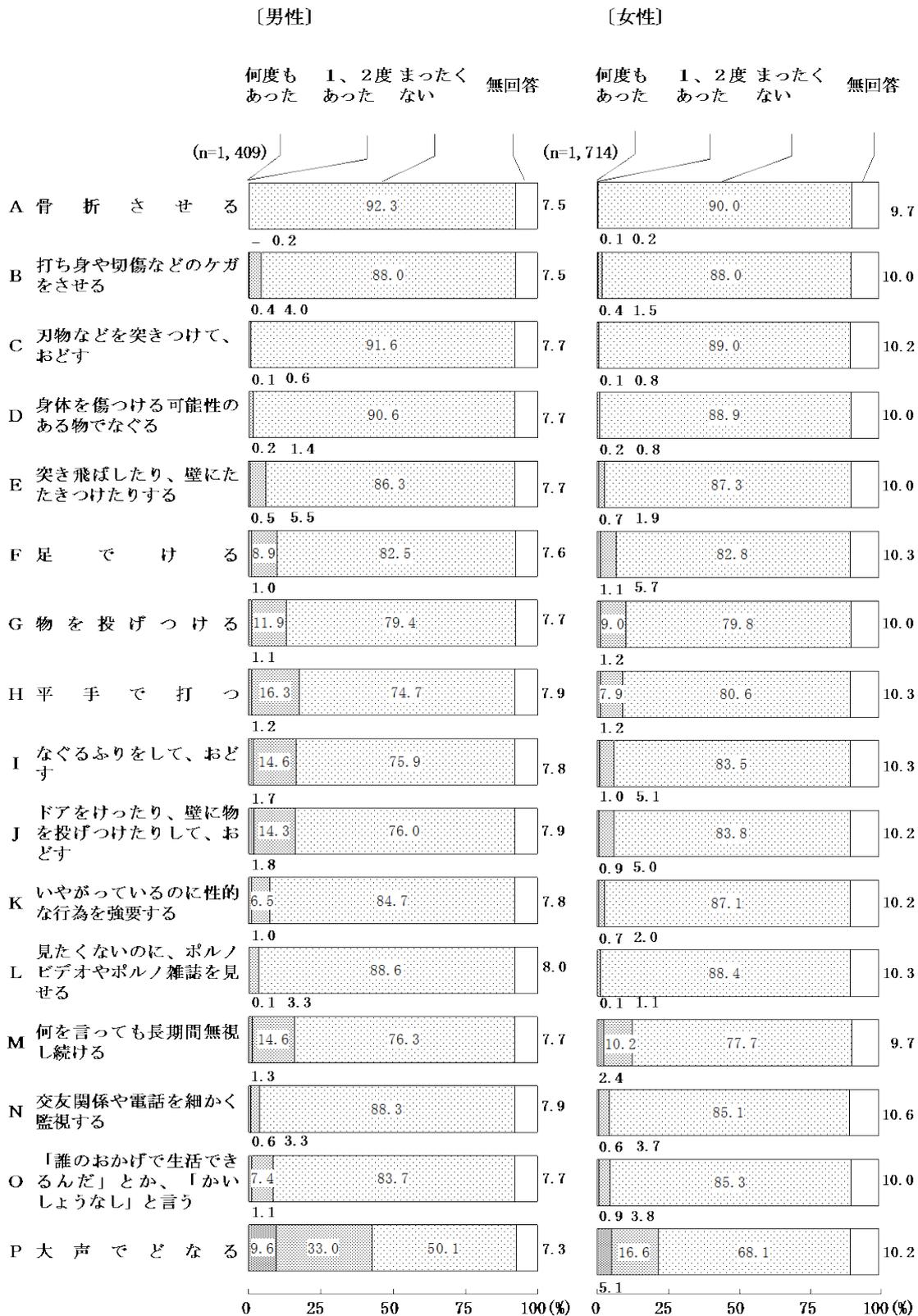
問 10 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった者に対して次のような行為をしたことがありますか。AからPのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

図 3-2-1 配偶者等への加害経験



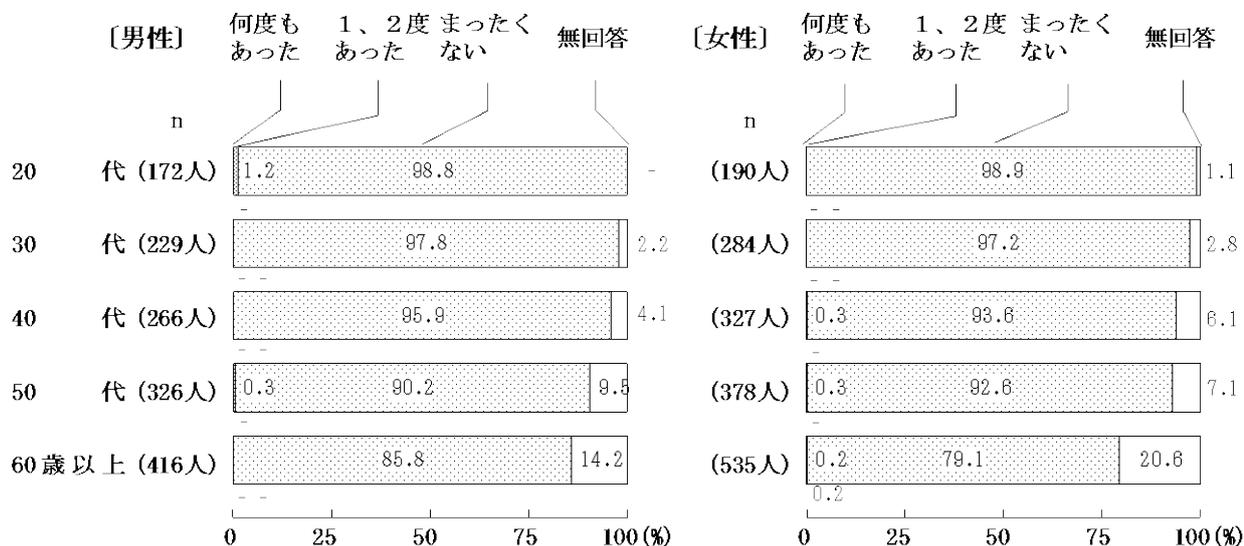
図3-2-2 配偶者等への加害経験（男女別）



それぞれの行為について、性・年齢別にみていく。

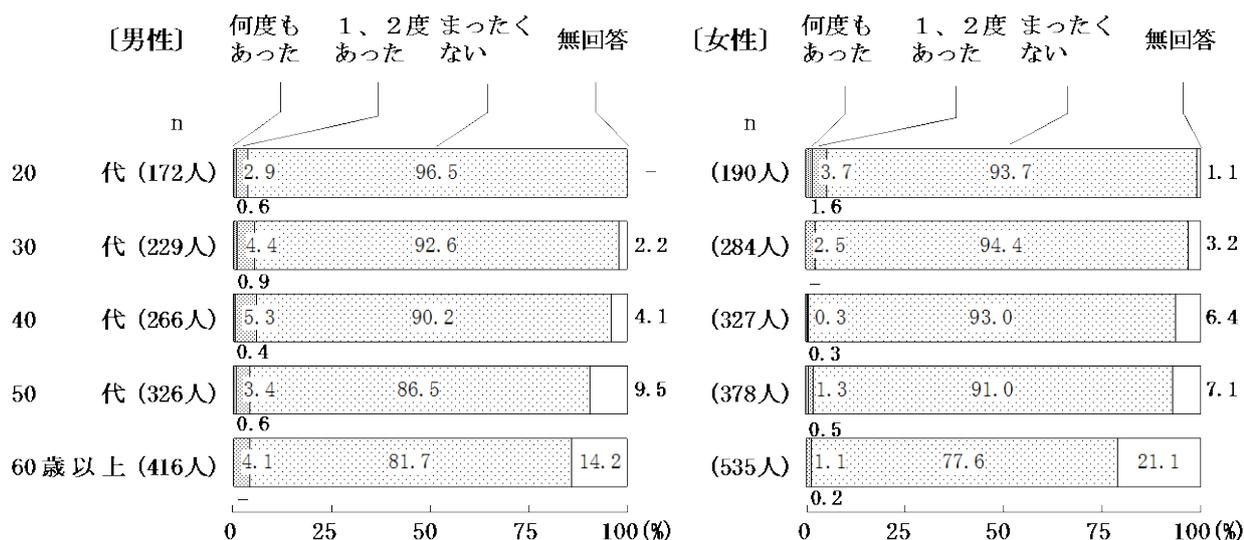
まず、“骨折させる”については（図3-2-3）、いずれの性・年齢層でも「まったくない」という人が多数を占め、加害経験のある人はほとんどみられない。

図3-2-3 配偶者等への加害経験－“骨折させる”（性・年齢別）



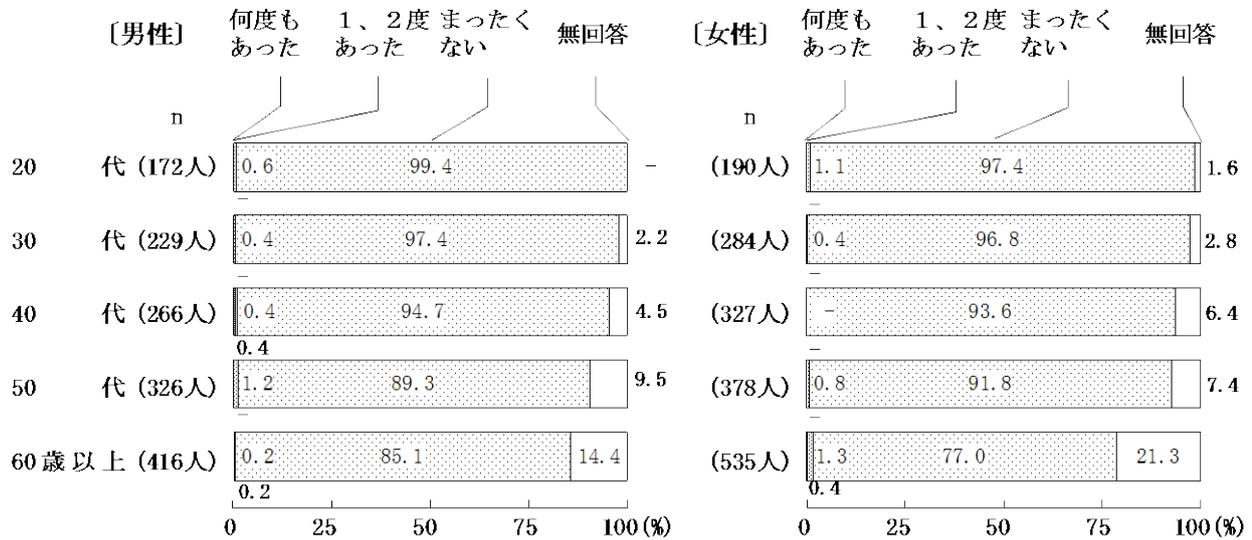
“打ち身や切傷などのケガをさせる”行為についても（図3-2-4）、いずれの性・年齢層でも「まったくない」という人が多数を占めており、加害経験のある人は1割に満たない。

図3-2-4 配偶者等への加害経験－“打ち身や切傷などのケガをさせる”  
(性・年齢別)



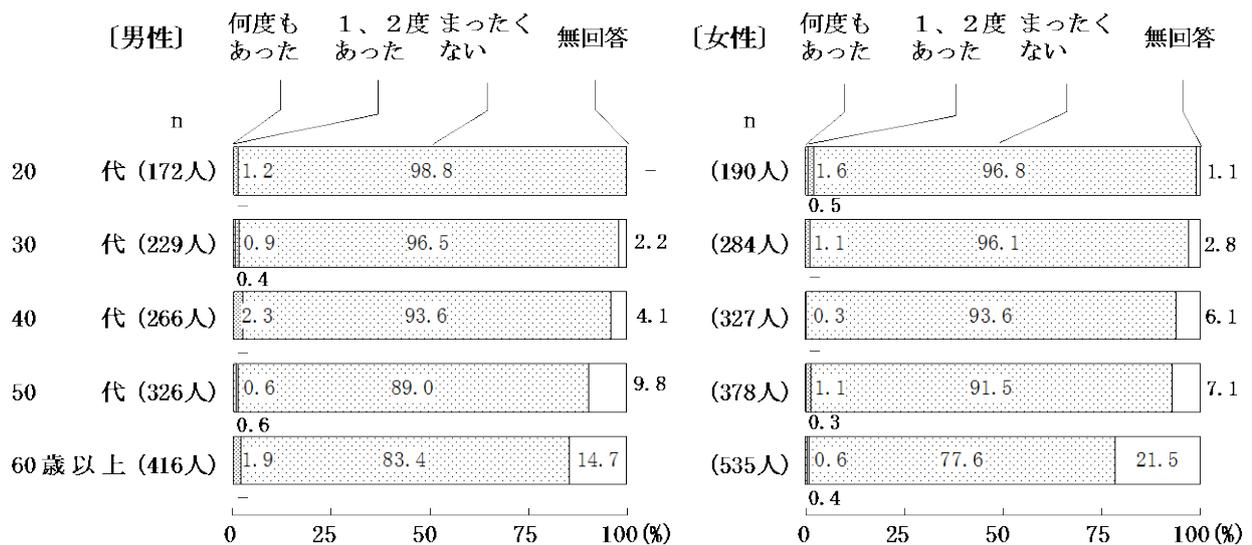
“刃物などを突きつけて、おどす”ことも（図3-2-5）、いずれの性・年齢層でも、配偶者や恋人に対してしたことが「まったくない」という人が多数を占めている。

図3-2-5 配偶者等への加害経験—“刃物などを突きつけて、おどす”  
(性・年齢別)



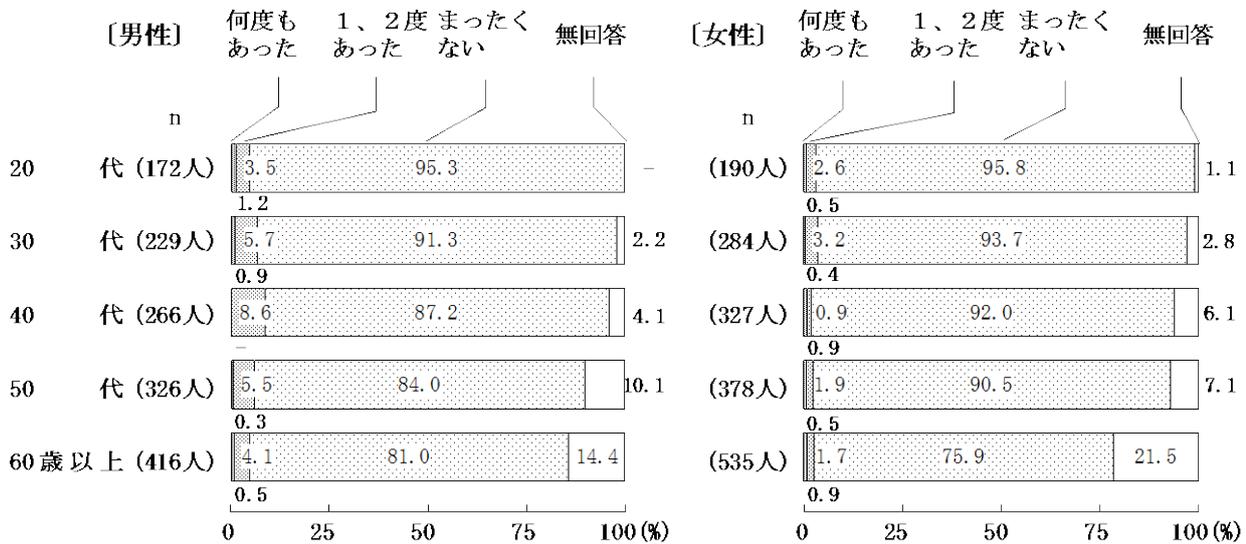
“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”行為も（図3-2-6）、これまでにしたことが「まったくない」人が多数を占めている。

図3-2-6 配偶者等への加害経験—“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”  
(性・年齢別)



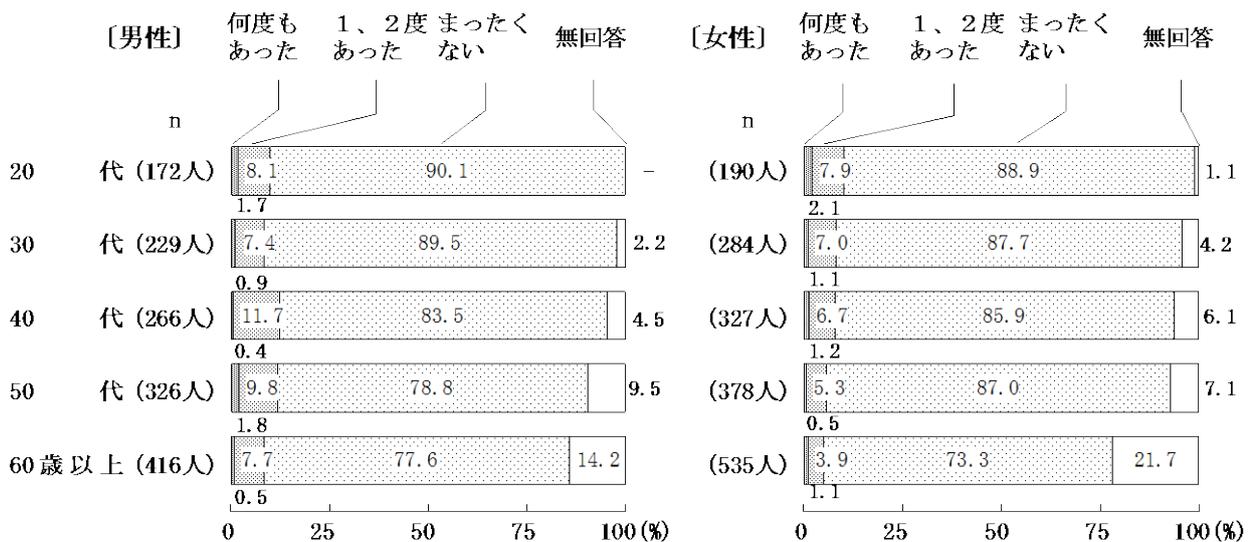
“突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする”行為も（図3-2-7）、いずれの性・年齢層でも、配偶者等に対してしたことが「まったくない」という人が多数を占めているが、男性の40代で「1、2度あった」（8.6%）という人が1割近くになっている。

図3-2-7 配偶者等への加害経験－“突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする”  
(性・年齢別)



“足でける”行為は（図3-2-8）、女性では50代までの年齢層で「まったくない」という人が9割近いが、男性では8割弱から9割で、「1、2度あった」という人がすべての年齢層で1割前後いる。

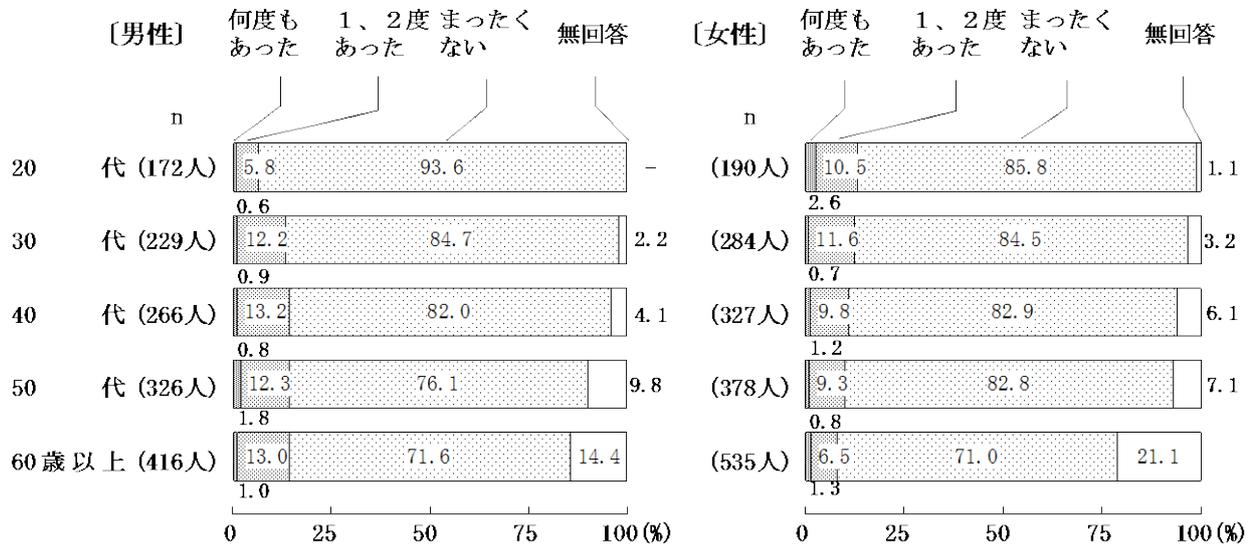
図3-2-8 配偶者等への加害経験－“足でける” (性・年齢別)



配偶者や恋人に対して“物を投げつける”ことが「1、2度あった」人は、男性の30代以上と女性の50代までの年齢層で1割前後となっている（図3-2-9）。

図3-2-9 配偶者等への加害経験－“物を投げつける”

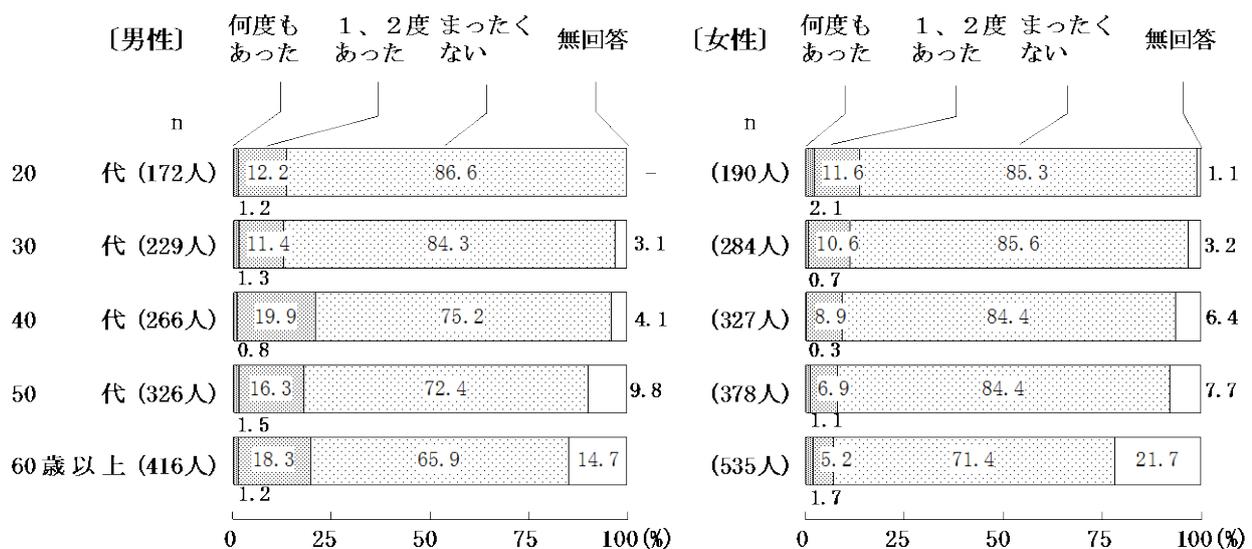
(性・年齢別)



配偶者や恋人を“平手で打つ”ことが「1、2度あった」という人は、男性では20代～30代までの若年層より中高年層に、女性では若年層に、わずかではあるが多い傾向がある（図3-2-10）。

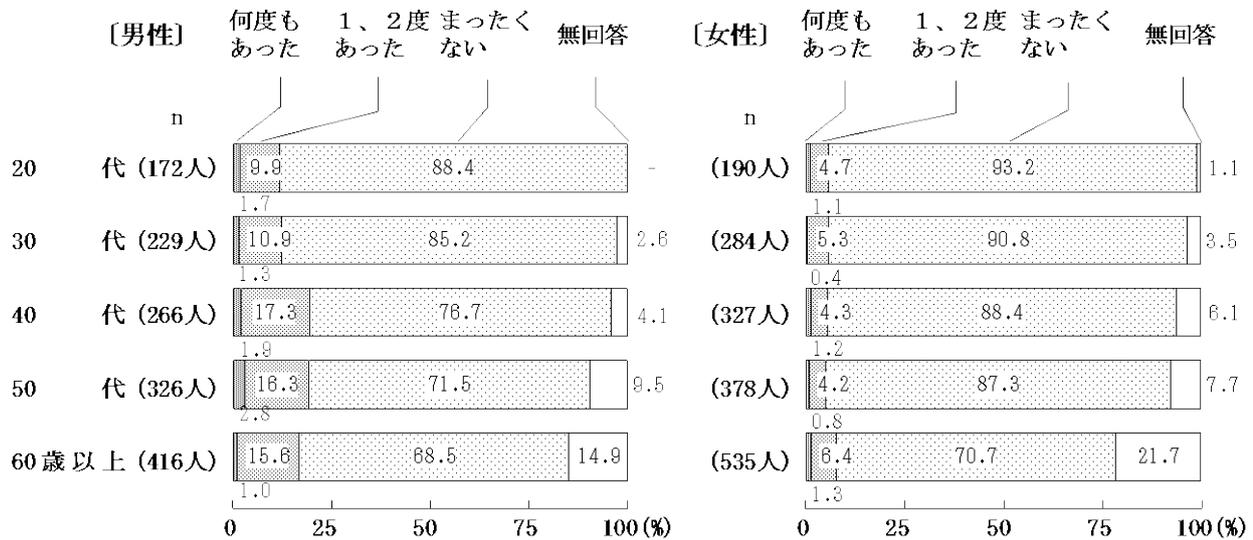
男性の40代以上で「1、2度あった」という人は2割近い。

図3-2-10 配偶者等への加害経験－“平手で打つ” (性・年齢別)



配偶者や恋人に“なぐるふりをして、おどす”行為については（図3-2-11）、女性の20代～50代では「まったくない」という人が9割前後と多数を占めているが、男性では40代以上で8割を切り、2割近くが「1、2度あった」と答えている。

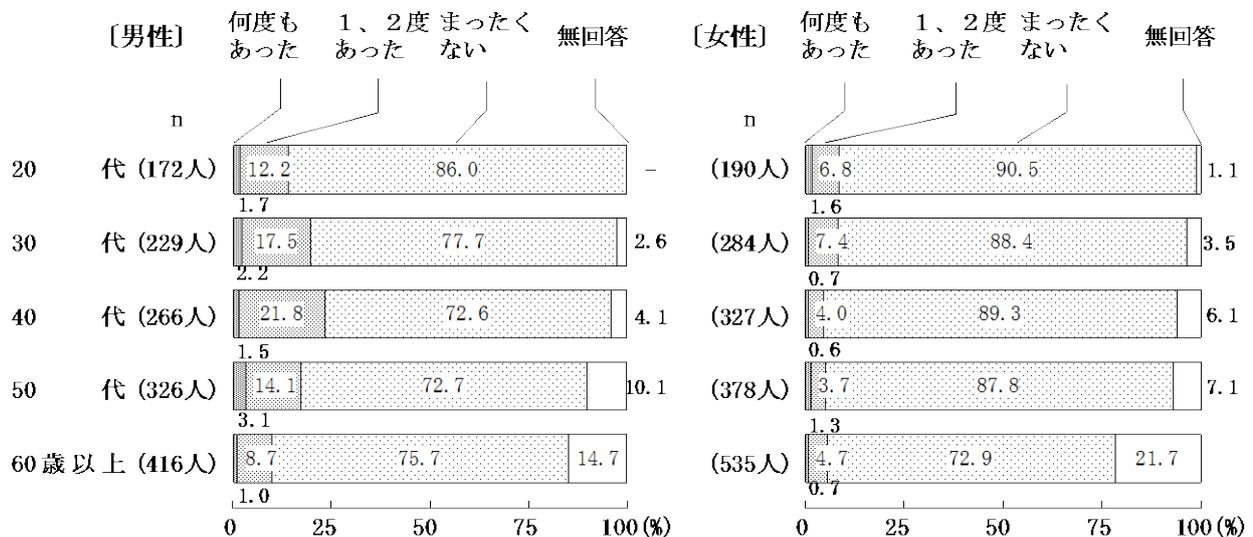
図3-2-11 配偶者等への加害経験—“なぐるふりをして、おどす”（性・年齢別）



“ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす”行為も（図3-2-12）、女性の20代～50代では9割前後が「まったくない」と答えているが、男性では30代以上になると「まったくない」という人が7割台である。男性の30代～40代では、“おどす”ことが「1、2度あった」という人が2割前後いる。

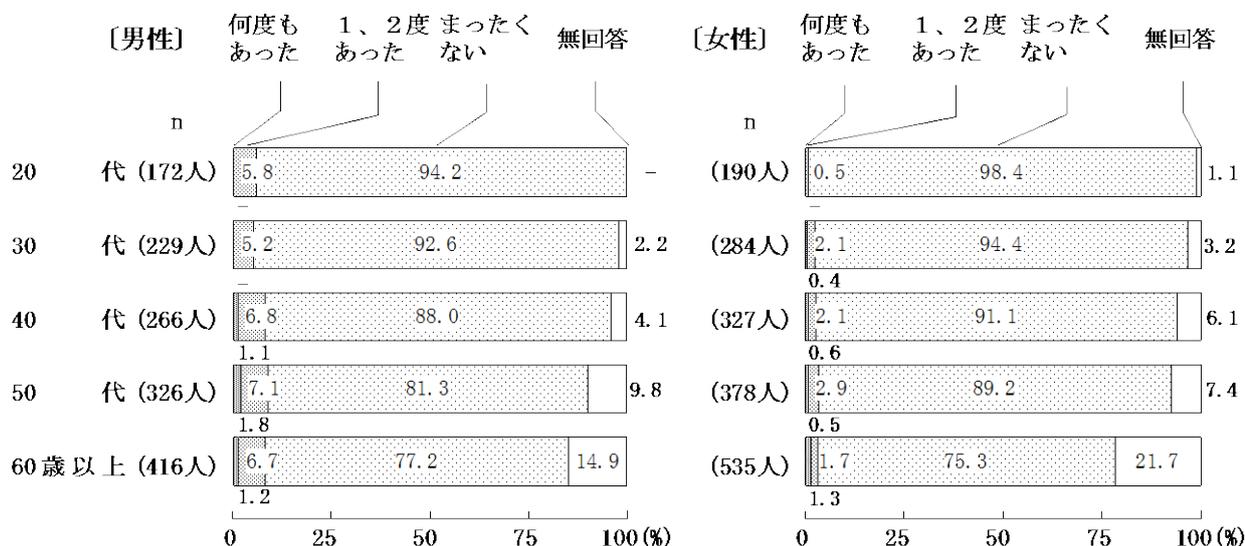
図3-2-12 配偶者等への加害経験

— “ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす”（性・年齢別）



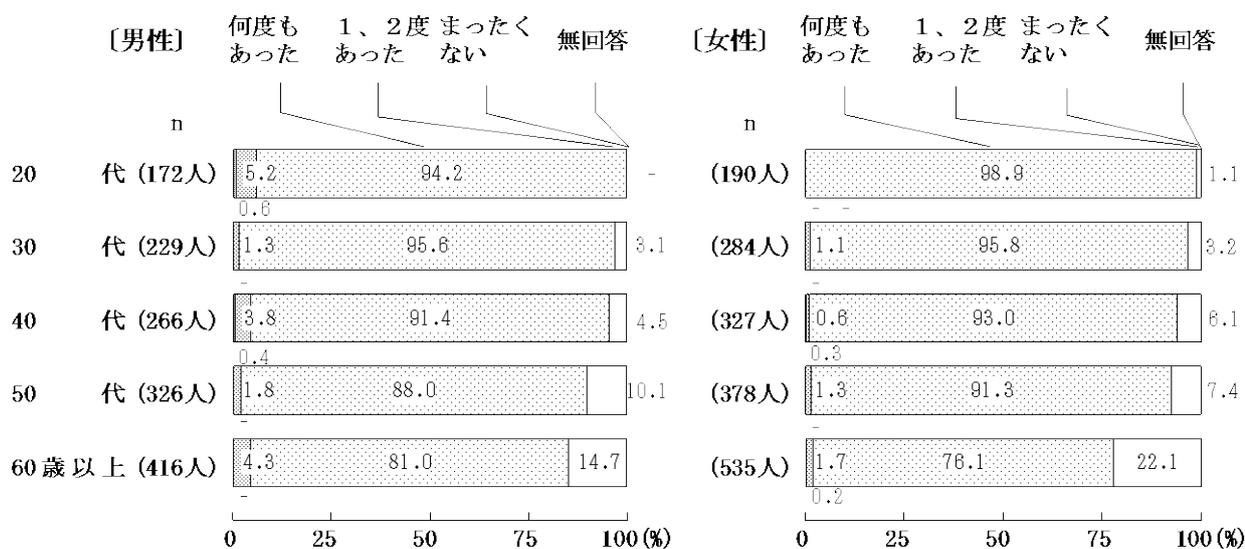
配偶者や恋人が“いやがっているのに性的な行為を強要する”ことは「まったくない」という人が、いずれの性・年齢層でも多数を占めているが、男性に「1、2度あった」という人が、女性の同年代の層に比べてやや多い傾向がある（図3-2-13）。

図3-2-13 配偶者等への加害経験－“いやがっているのに性的な行為を強要する”  
(性・年齢別)



配偶者や恋人が“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”ことについては、いずれの性・年齢層でも「まったくない」という人が多数を占めている（図3-2-14）。

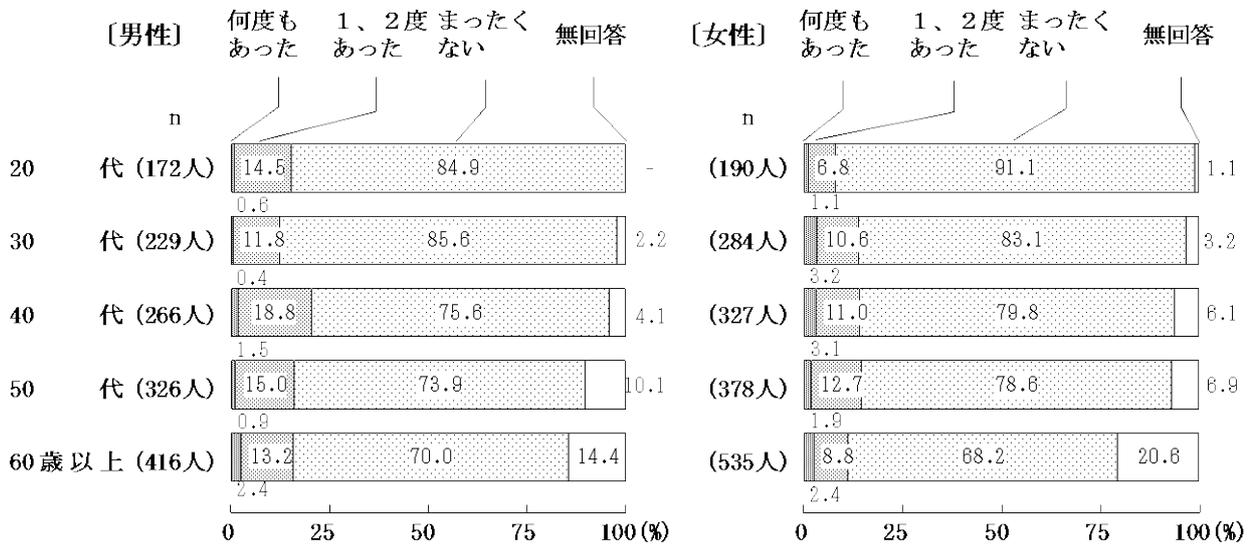
図3-2-14 配偶者等への加害経験  
－“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”（性・年齢別）



“何を言っても長期間無視し続ける”ことは（図3-2-15）、女性の20代では「まったくない」（91.1%）という人が9割強であるが、その他の年齢層では7～8割台となっており、「1、2度あった」という人が1～2割弱いる。

図3-2-15 配偶者等への加害経験－“何を言っても長期間無視し続ける”

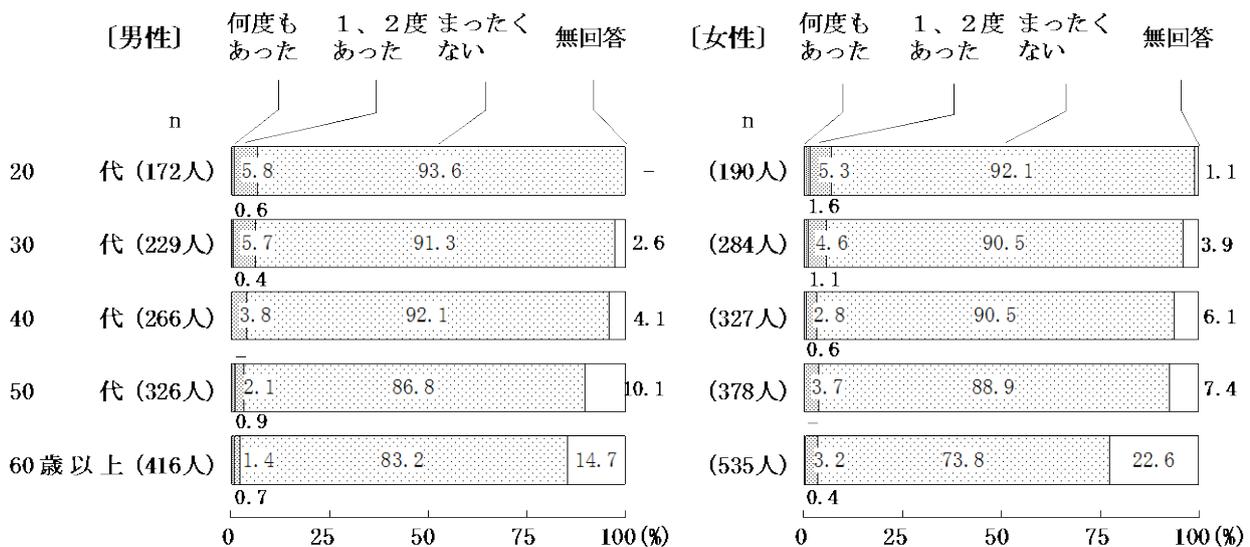
（性・年齢別）



配偶者や恋人の“交友関係や電話を細かく監視する”ことについては（図3-2-16）、男女とも、これまでに「まったくない」という人が多数を占めている。

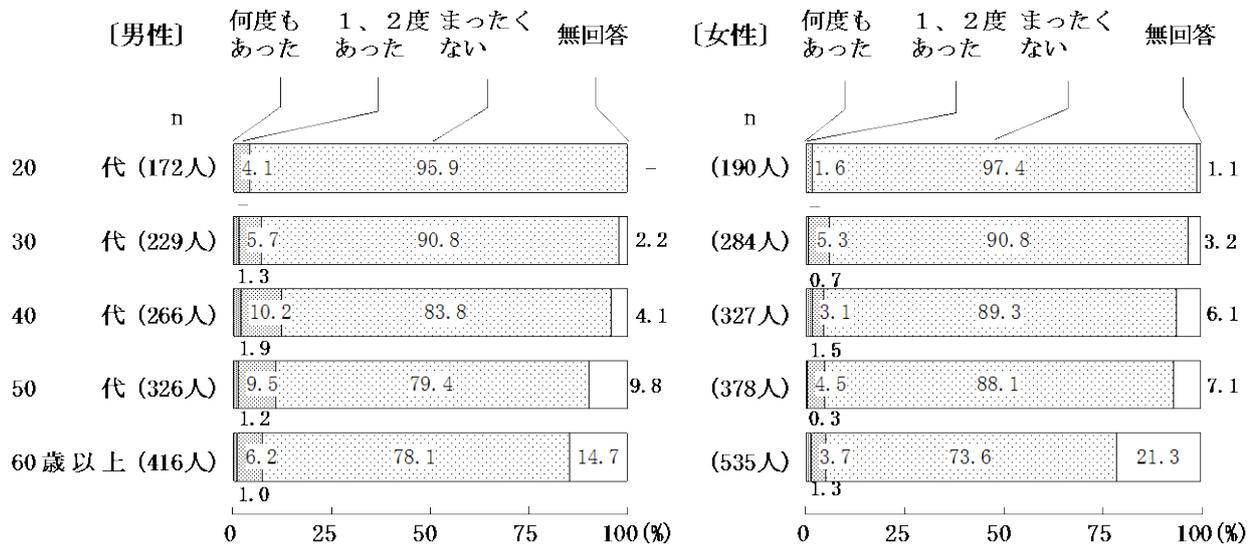
図3-2-16 配偶者等への加害経験－“交友関係や電話を細かく監視する”

（性・年齢別）



“誰のおかげで生活できるんだ”とか、「かいしようなし」と言う”ことが「1、2度あった」という人は、男性の40代～50代で1割であるが、他はいずれの性・年齢層でも「まったくない」という人が多数を占めている（図3-2-17）。

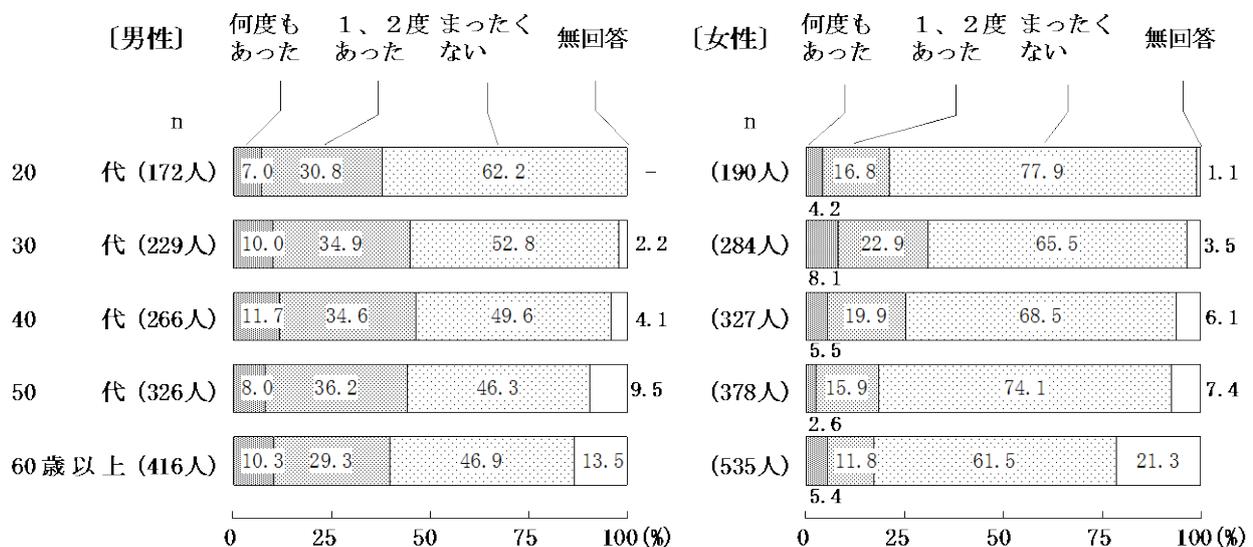
図3-2-17 配偶者等への加害経験－“誰のおかげで生活できるんだ”とか、「かいしようなし」と言う”（性・年齢別）



配偶者や恋人に“大声でどなる”ことは（図3-2-18）、男性の30代～50代で「1、2度あった」という人がほぼ3人に1人となっている。また、男性のいずれの年齢層でも、「何どもあった」という人が1割前後となっている。

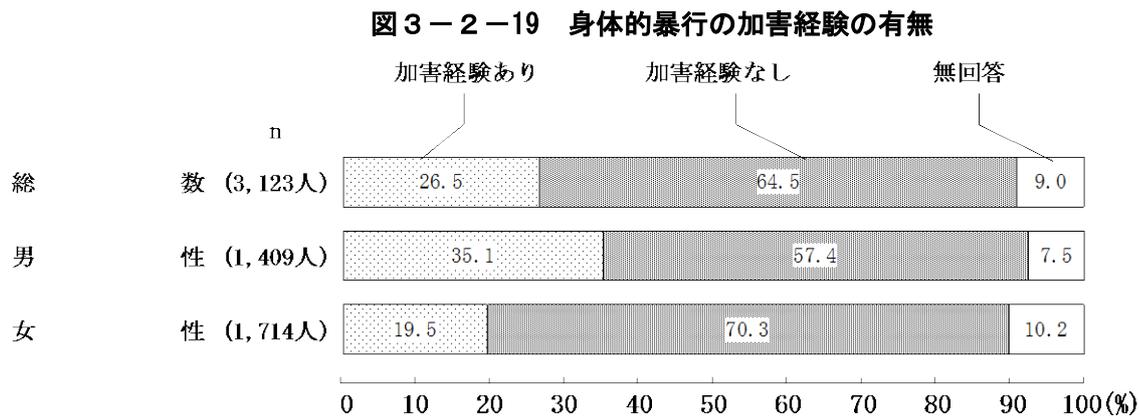
一方、女性では、30代～40代で、「1、2度あった」という人が2割前後となっており、他の年齢層でも1割を上回る。

図3-2-18 配偶者等への加害経験－“大声でどなる”（性・年齢別）



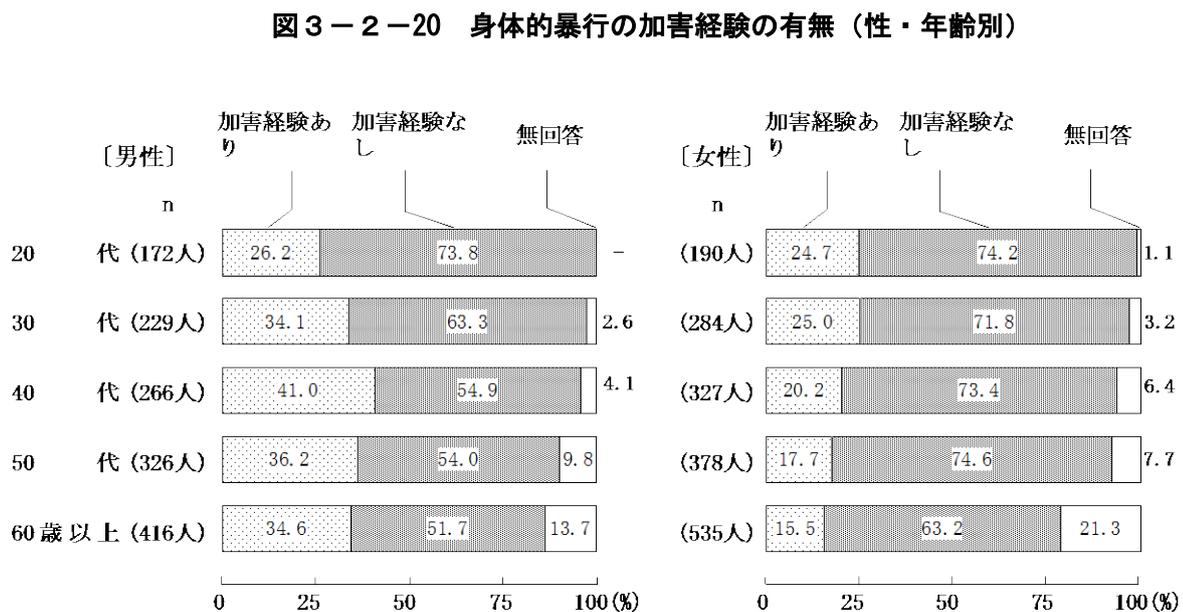
“骨折させる”“打ち身や切傷などのケガをさせる”“刃物などを突きつけて、おどす”“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”“突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする”“足でける”“物を投げつける”“平手で打つ”“なぐるふりをして、おどす”“ドアをけったり、壁に物を投げつけたりして、おどす”といった身体的な暴行のいずれかを、これまでに配偶者や恋人などに対して行ったことがあるかどうかを、“身体的暴行の加害経験の有無”としてみると（図3-2-19）、「加害経験がある」という人は26.5%である。

男女別にみると（図3-2-19）、配偶者や恋人に対して身体的暴行の「加害経験がある」という人は男性35.1%、女性19.5%で、男性が女性を16ポイント上回っている。



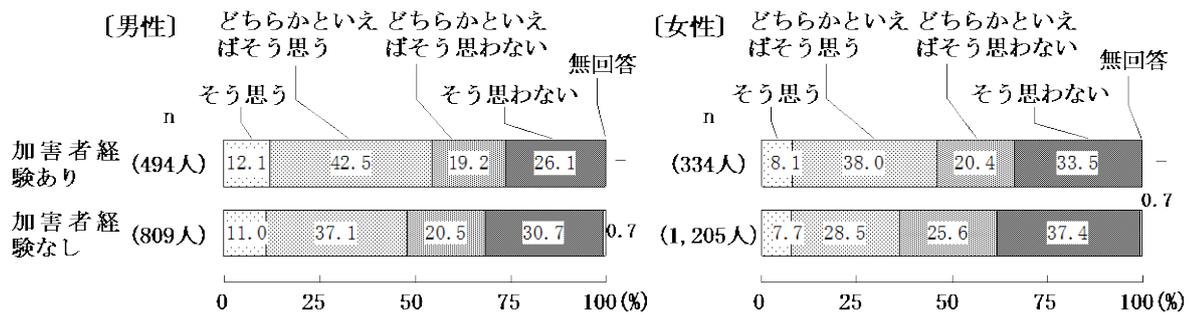
性・年齢別にみると（図3-2-20）、男性の20代で「加害経験がある」人は26.2%であるが、30代以上になると3割を上回り、特に40代（41.0%）では4割強と多くなっている。

一方、女性では若年齢層ほど「加害経験がある」人が多くなる傾向にあり、20代（24.7%）と30代（25.0%）では、ほぼ4人に1人が配偶者や恋人に対して身体的暴行の加害経験をもっている。



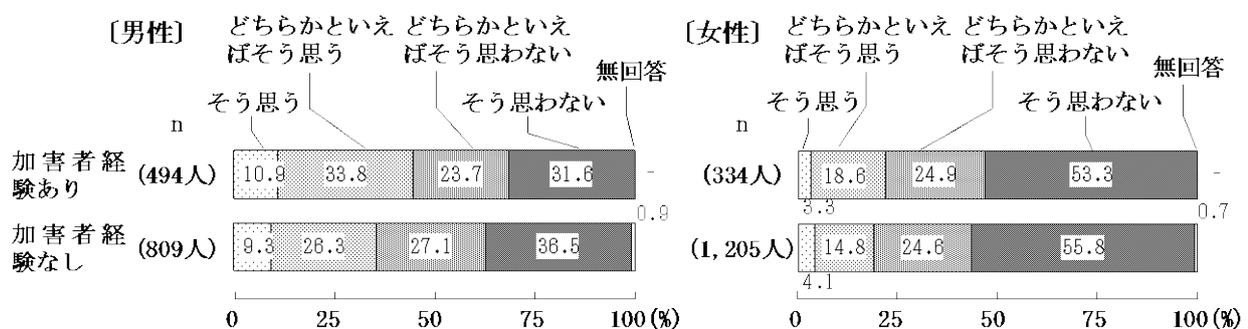
性・身体的暴行の加害経験の有無別に「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という男女の固定的な役割分担意識についてみると（図3-2-21）、「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」と答えた役割分担に肯定的な人は、男女とも配偶者や恋人への身体的暴行の加害経験がある人の方がいない人より多くなっており、特に男性の加害経験者（「そう思う」12.1%+「どちらかといえばそう思う」42.5%）で過半数となっている。

図3-2-21 「男性は外で働き、女性は家で家事・子育てをするものである」という考え方（性・身体的暴行の加害経験の有無別）



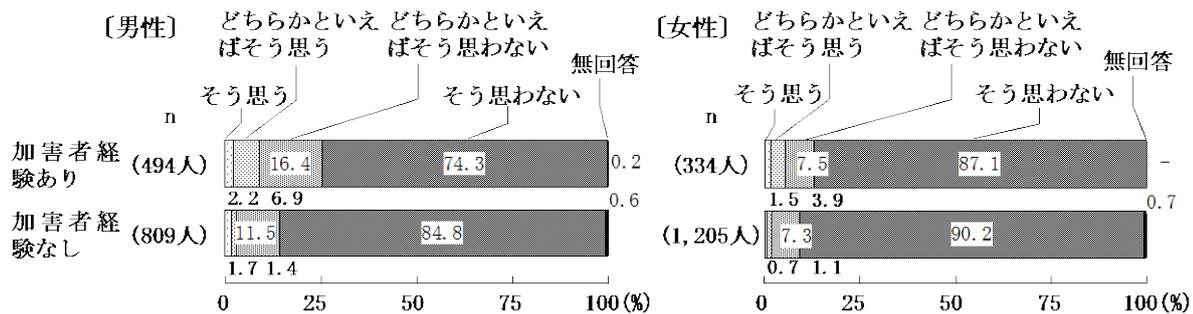
性・身体的暴行の加害経験の有無別に「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が、『よい妻』である」という考え方についてみると（図3-2-22）、女性では加害経験の有無による意識の差が小さく、否定的な人（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）がほぼ8割を占めている。一方、男性では加害経験者の4割以上が、「素直に聞き入れる妻が『よい妻』である」という考えに肯定的（「そう思う」10.9%+「どちらかといえばそう思う」33.8%）で、加害経験のない男性（同9.3%+26.3%）を9ポイント上回っている。

図3-2-22 「夫の言うことを素直に聞き入れる妻が、『よい妻』である」という考え方（性・身体的暴行の加害経験の有無別）



さらに、性・身体的暴行の加害経験別に「しつけや教育のために、夫が妻をたたくのは、やむを得ないことである」という考え方についての意識をみると（図3-2-23）、性・加害経験の有無にかかわらず否定的（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）な人が9割を上回っているが、男性の加害経験者で肯定的（「そう思う」2.2%＋「どちらかといえばそう思う」6.9%）が1割近くとやや多くなっている。

図3-2-23 「しつけや教育のために、夫が妻をたたくのは、やむを得ないことである」という考え方（性・身体的暴行の加害経験の有無別）

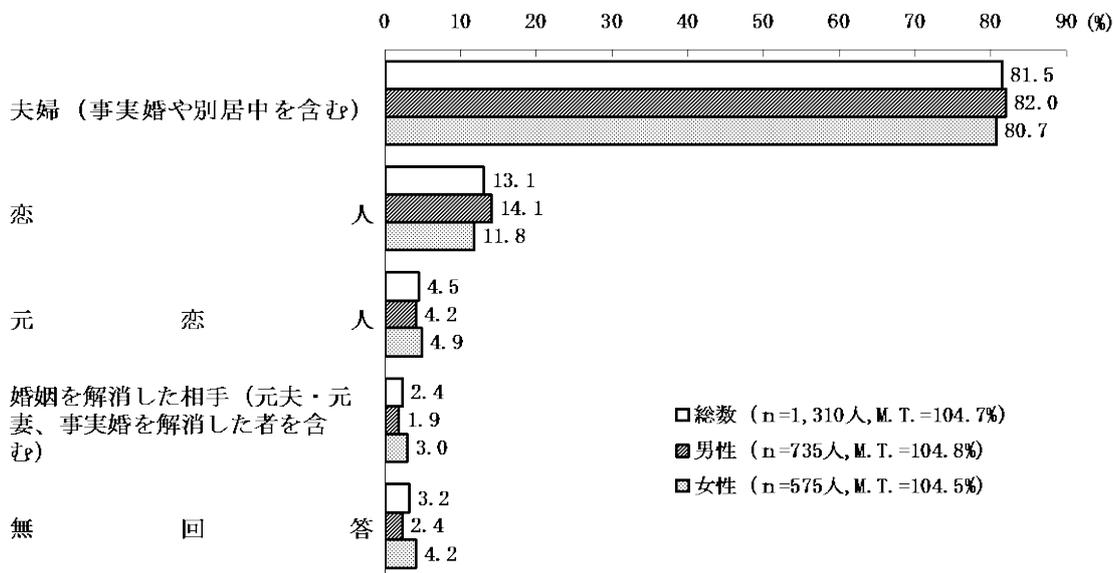


さきに聞いた 16 の行為について、1 つでも「1、2 度あった」もしくは「何度もあった」と答えた人 (1,310 人) に、その行為をした際の相手との関係を聞いたところ (図 3-2-24)、「夫婦 (事実婚や別居中を含む)」が 81.5% で際立って多くあげられ、以下「恋人」(13.1%)、「元恋人」(4.5%)、「婚姻を解消した相手 (元夫・元妻、事実婚を解消した者を含む)」(2.4%) の順となっている。

男女別にみても (図 3-2-24)、大きな差はみられない。

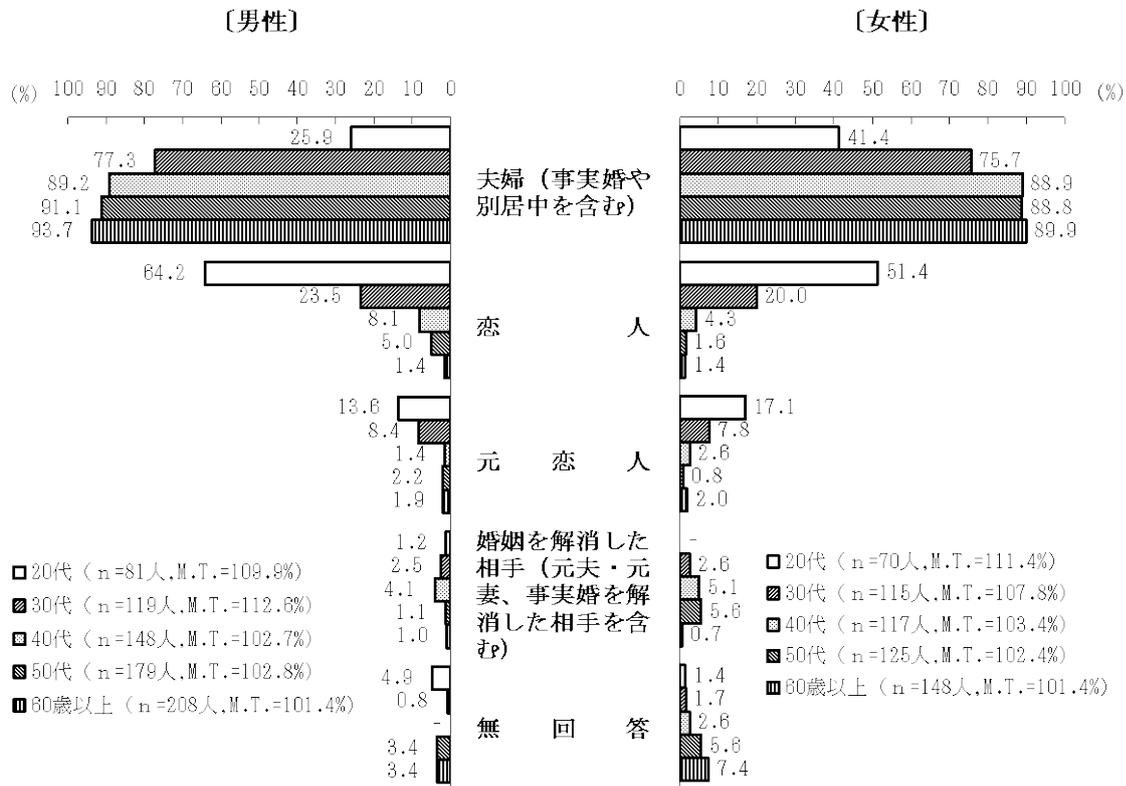
【付問 1～3 は、問 10 の A～P のうち、1 つでも「2 1、2 度あった」「3 何度もあった」と回答した方にお聞きします。すべて「1 まったくない」と答えた方は、次ページの問 11 へお進みください。】  
 付問 1 その相手は、当時、あなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

図 3-2-24 加害行為をした相手



性・年齢別にみると（図3-2-25）、男女とも30代以上の年齢層では「夫婦」が7割を上回って最も多くあげられているが、20代では「恋人」が男性64.2%、女性51.4%と最も多くなっている。女性の20代では、「元恋人」（17.1%）も2割弱と、他の性・年齢層より多くなっている。

図3-2-25 加害行為をした相手（性・年齢別）



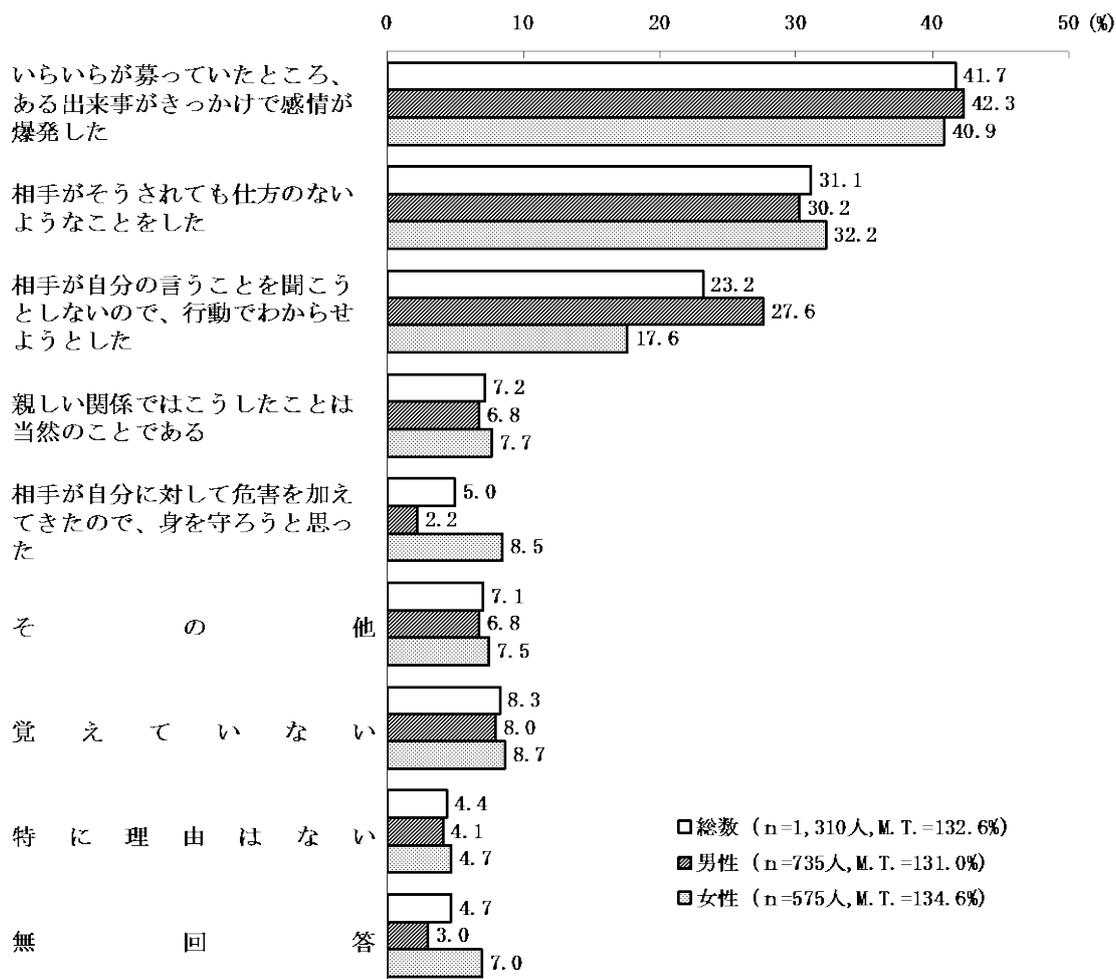
配偶者や恋人に対して 16 の行為をするに至ったきっかけとしては（図 3-2-26）、「いらいらが募っていたところ、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」（41.7%）が 4 割強で最も多くあげられ、次いで「相手がそうされても仕方がないようなことをした」（31.1%）が 3 割強、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」（23.2%）が 2 割強となっている。

男女別にみると（図 3-2-26）、男女とも「ある出来事がきっかけで感情が爆発した」（男性 42.3%、女性 40.9%）と「相手がそうされても仕方がないようなことをした」（同 30.2%、32.2%）が上位 2 項目にあげられて差はみられないが、第 3 位の「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」（同 27.6%、17.6%）は男性が女性を 10 ポイント上回っている。

また、女性の 1 割近くは「相手が自分に対して危害を加えてきたので、身を守ろうと思った」（8.5%）と答えており、男性（2.2%）を 6 ポイント上回っている。

付問 2 あなたが、問 10 であげたような行為をするに至ったきっかけは何でしたか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はいくつでも）

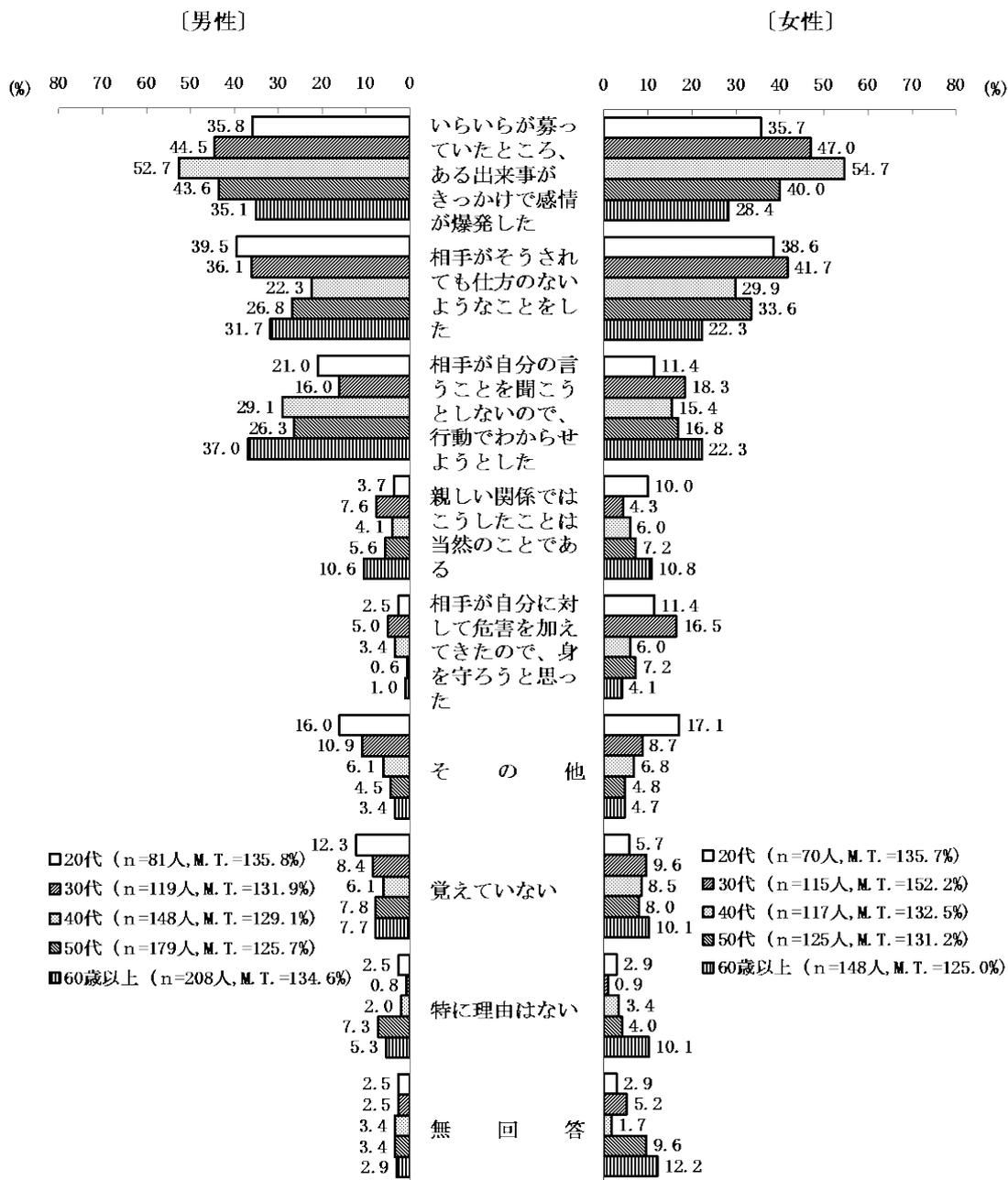
図 3-2-26 加害に至ったきっかけ



性・年齢別にみると（図3-2-27）、男女とも40代で「ある出来事がきっかけで感情が爆発した」（男性52.7%、女性54.7%）が5割を上回って多くあげられている。

「相手がそうされても仕方のないようなことをした」は、男女とも20代～30代の若年層で4割前後と、他の性・年齢層より多くあげられている。また、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」は、男女とも高年齢層に多くあげられる傾向があり、特に男性の60歳以上（37.0%）で4割弱となっている。

図3-2-27 加害に至ったきっかけ（性・年齢別）



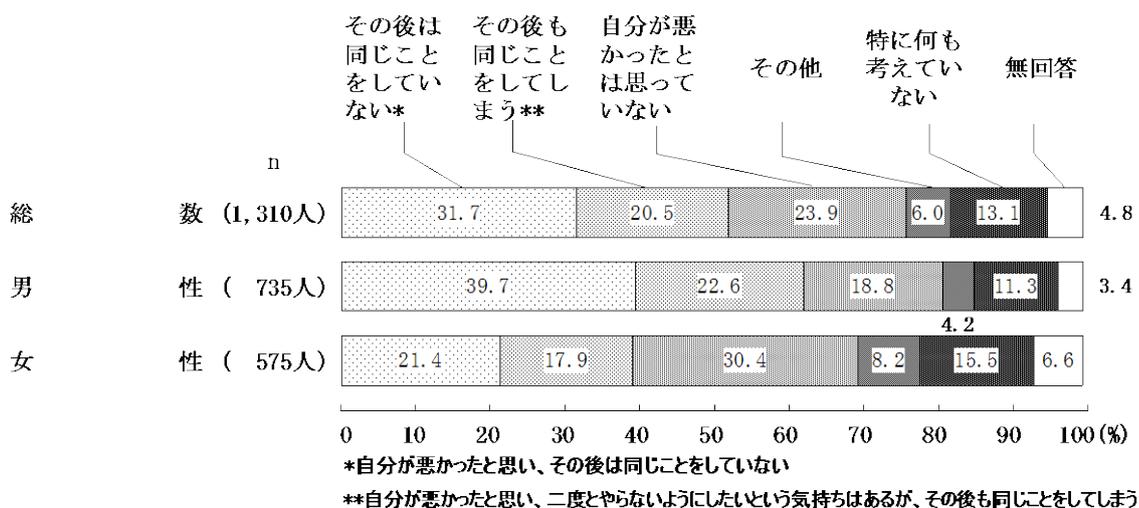
配偶者や恋人に対してさきあげたような行為をしたことを振り返ってどのように考えているかを聞いたところ（図3-2-28）、「自分が悪かったと思い、その後は同じことをしていない」という人が31.7%で最も多くなっているが、ほぼ4人に1人は「自分が悪かったとは思っていない」（23.9%）と答えている。

「自分が悪かったと思い、二度とやらないようにしたいという気持ちはあるが、その後も同じことをしてしまう」（20.5%）という人は2割である。

男女別にみると（図3-2-28）、「自分が悪かったと思い、その後は同じことをしていない」（男性39.7%、女性21.4%）という人は男性で4割近く、女性を18ポイント上回っている。一方、女性では「自分が悪かったとは思っていない」（同18.8%、30.4%）という人が3割で、男性を12ポイント上回っている。

付問3 あなたは、問10であげたような行為をしたことについて、どのように考えていますか。  
あなたの考えに近い番号に○をつけてください。（○は1つ）

図3-2-28 加害行為を振り返って



性・年齢別にみると（図3-2-29）、男性ではいずれの年齢層でも「自分が悪かったと思い、その後は同じことをしていない」という人が最も多く、特に30代では45.4%である。

一方、女性では、いずれの年齢層でも「自分が悪かったとは思っていない」と答えた人が3割前後と最も多くなっている。

図3-2-29 加害行為を振り返って（性・年齢別）

